

■群馬県バイオマス活用推進計画進捗点検調査票（事業別個票）■

調査対象年度 平成23年度

バイオマスの種別	取組方針		個票 No
農業資源	a すき込み及び堆肥化への活用推進	収穫残さは農地への還元処理を基本とし、「粉碎、細片化等により農地への還元」、「堆肥化等の適正処理」を推進します。	1

(1) 事業の実施状況

事業名	事業概要	事業評価
キュウリ残さの適正処理技術の開発  平成23～25年度  (担当課) 農政課 農業技術センター	<b>【現状認識・課題】</b>  キュウリ等の栽培後に残る茎葉の残さは、ポリビニール製の誘引ひもの分離が困難である。また、残さ処理時の病害虫や肥料成分の残存等の影響が明らかでないことから、ほ場へのすき込みが難しく、農家にとって残さ処理が大きな負担となっている。	<b>【施策の必要性】</b>  A：状況の変化等により必要性が増大している B：従前どおりの必要性が求められている C：状況の変化等により必要性は後退している D：目的を達成し、必要性は薄れている
	<b>【事業のねらい・具体的内容】</b>  栽培終了後に発生するキュウリ残さの適正処理法として、残さ処理をとまなう土壌還元消毒法を作業体系を含めて確立する。  (注) 土壌還元消毒法 土壌に有機物（一般にはふすままたは米ぬか）を混和し、十分な水分を与え、ビニル被覆し地温30℃以上を確保する土壌消毒法。微生物のはたらきによって、土壌は急激に酸素消費され還元状態になり、多くの土壌病害虫が死滅する。	<b>【目標に対する貢献度】</b>  A：予定を上回る効果 B：ほぼ予定通りの効果 C：予定を下回る効果 D：現時点で判断できない
[H23年度決算額]  700千円 (国庫補助) (県単独)	<b>【23年度事業実績とその効果】</b>  現地実態を把握するため、キュウリ栽培農家を対象にアンケート調査を行い、農家の所有している施設、機械装備、栽培に使用している資材等を把握し、新たな残さ処理方法を構築するための条件整理を行った。 また、土壌還元消毒の条件検討としてポット試験レベルで投入有機物量によるセンチウ防除効果、残さの分解性の検討を行った。	<b>【成果・活動指標の傾向評価】</b>  A：全体として目標に向かっている(改善傾向) B：全体として厳しい状況(悪化傾向) C：横ばいの傾向
[H24年度予算額]  530千円 (国庫補助) (県単独)	<b>【今後の方針】</b>  現状のプラスチック系の誘引資材に代わりうる、十分な強度を保ちながら分解性の高い栽培資材を選定する。 土壌還元消毒法の処理条件（残さのすき込み量と投入する米ぬかの量）のほ場レベルでの実証を行い、病害虫（褐斑病やセンチウ）の防除効果の評価を行う。	<b>【施策の手法・効率性】</b>  A：概ね妥当と考える B：部分的見直しが必要 C：大幅な見直しが必要 D：廃止・休止の方向

(2) 成果（活動）指標・関連データの推移

指標名	指標の推移					目標 目標年次	傾向・要因分析
	2011	2012	2013	2014	2015		
開発技術 技術			1			2013年 1技術	ぐんま農業新技術として普及に移す

■群馬県バイオマス活用推進計画進捗点検調査票（事業別個票）■

調査対象年度 平成23年度

バイオマスの種別	取組方針		個票 No
畜産資源	a 「群馬県家畜排せつ物利用促進計画」に基づく取組	家畜排せつ物の利用を促進し、資源として有効活用を図ります	2

(1) 事業の実施状況

事業名	事業概要	事業評価
地域と調和した畜産環境確立事業  平成12～28年  (担当課) 畜産課	【現状認識・課題】  家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律「以下(家畜排せつ物法)」に基づく管理基準は、ほぼすべての法適用対象農家において遵守されるようになったが、これまでの畜産経営の規模拡大化、地域的偏在により、生産された堆肥を経営内・地域内においていかに有効に活用していくかが課題となっている。 また、市街化・混住化の進展、家畜飼養規模の拡大等に伴い畜産経営に起因する環境問題が発生し、健全な発展にとって早急に解決しなければならない課題となっている。特に悪臭関連の苦情件数は平成22年度90件発生し、苦情全体の7割を占めている	【施策の必要性】  A：状況の変化等により必要性が増大している B：従前どおりの必要性が求められている C：状況の変化等により必要性は後退している D：目的を達成し、必要性は薄れている
	【事業のねらい・具体的内容】  ・資源循環型農業の推進を図るため、堆肥の流通利用に必要施設や機械の整備等について補助する。 ・水特法の指定を受けた長野原町の農家が、リース事業で整備した施設や機械について毎年度支払う基本貸付料に対し補助する。 ・家畜排せつ物法猶予期間中にリース事業で施設や機械を整備した農家の附加貸付料に対し補助する。	【目標に対する貢献度】  A：予定を上回る効果 B：ほぼ予定通りの効果 C：予定を下回る効果 D：現時点で判断できない
〔H23年度決算額〕  4,362千円  〔国庫補助〕  ○県単独	【23年度事業実績とその効果】  実績 ・家畜ふん堆肥流通利用支援事業→安中市に堆肥保管庫を整備 ・畜産環境リース緊急整備事業→基本貸付料の補助(長野原4戸) ・畜産環境リース整備促進事業→附加貸付料の補助(県下179戸) 効果 家畜排せつ物処理施設や堆肥流通利用施設の整備を進めたことで、家畜排せつ物法に則した排せつ物管理が促進され、有効資源の利活用が促進されるとともに、地域の畜産環境保全が図られた。	【成果・活動指標の傾向評価】  A：全体として目標に向かっている(改善傾向) B：全体として厳しい状況(悪化傾向) →：横ばいの傾向
〔H24年度予算額〕  7,538千円  〔国庫補助〕  ○県単独	【今後の方針】  ・畜産系バイオマスの有効利用を図るため、堆肥流通利用施設の整備を進める。特に24年度からは集落営農集団等耕種農家組織をも対象に事業推進を図り、より効率的な耕畜連携を図る。 ・悪臭防止対策のための脱臭装置等の設置、水質汚濁防止法の暫定基準の改正に伴い高度処理装置の導入費を補助し、地域と調和した畜産経営の確立に努める。	【施策の手法・効率性】  A：概ね妥当と考える B：部分的見直しが必要 C：大幅な見直しが必要 D：廃止・休止の方向

(2) 成果(活動)指標・関連データの推移

指標名	指標の推移					目標	傾向・要因分析
	2011	2012	2013	2014	2015	目標年次	
畜産資源系バイオマスの有効利用率	78%	78%				79% 2021年	利用率をほぼ横ばいに保ち、家畜排せつ物の削減を図ることで、環境への負荷を低減させる。





## ■群馬県バイオマス活用推進計画進捗点検調査票（事業別個票）■

調査対象年度 平成23年度

バイオマスの種別	取組方針		個票 No
木質資源 I	a 効率的な収集・運搬システムの構築	切り捨て間伐から搬出間伐への移行を推進します	5

### (1) 事業の実施状況

事業名	事業概要	事業評価
森林環境保全直接支援事業（公共造林） 平成23年度～  森林整備加速化間伐事業 平成21年度～  （担当課） 林政課	<b>【現状認識・課題】</b>  人工林の多くは、木材として本格的な利用可能となる林分が年々増加しつつある。しかしながら、木材価格の低迷や搬出コストが高むことから、間伐実面積の81%で伐採された木が搬出されずに林内に放置される「林地残材」となっている。 この林地残材を無駄なく活かすためには、伐採・造材・搬出・運搬といった素材生産を、高密度な路網整備と高性能林業機械を組み合わせた効率的な作業システムの構築により低コスト化が必要である。	<b>【施策の必要性】</b>  ① A: 状況の変化等により必要性が増大している B: 従前どおりの必要性が求められている C: 状況の変化等により必要性は後退している D: 目的を達成し、必要性は薄れている
	<b>【事業のねらい・具体的内容】</b>  利用期を迎えつつある森林資源を活用し持続的な森林経営を実現するため、計画的に間伐等の整備を実施する者に対し搬出材積に応じた伐採等に係る経費の支援を行う。	<b>【目標に対する貢献度】</b>  A: 予定を上回る効果 ② B: ほぼ予定通りの効果 C: 予定を下回る効果 D: 現時点で判断できない
【H23年度決算額】  455,421 千円 〔 国庫補助 〕 〔 県単独 〕	<b>【23年度事業実績とその効果】</b>  搬出間伐材積：54,861m <sup>3</sup>	<b>【成果・活動指標の傾向評価】</b>  ③ A: 全体として目標に向かっている（改善傾向） B: 全体として厳しい状況（悪化傾向） C: 横ばいの傾向
【H24年度予算額】  334,969 千円 〔 国庫補助 〕 〔 県単独 〕	<b>【今後の方針】</b>  引き続き集約化施策による利用間伐の推進と効率的な作業システムの定着で切り捨て間伐から搬出間伐への移行を推進する。	<b>【施策の手法・効率性】</b>  ④ A: 概ね妥当と考える B: 部分的見直しが必要 C: 大幅な見直しが必要 D: 廃止・休止の方向

### (2) 成果（活動）指標・関連データの推移

指標名	指標の推移					目標	傾向・要因分析
	2011	2012	2013	2014	2015	目標年次	
素材生産量千m <sup>3</sup>	221					2021年 400千m <sup>3</sup> /年	順調な推移が見込める





# ■群馬県バイオマス活用推進計画進捗点検調査票（事業別個票）■

調査対象年度 平成23年度

バイオマスの種別	取組方針		個票 No
食品資源	d 生ごみ（事業系、家庭系）のリサイクル推進	NPO・市民活動団体等が行う廃食用油のリサイクル活動を支援します	8

## （1）事業の実施状況

事業名	事業概要	事業評価
菜の花 エコプロジェクト  [実施予定年度] 平成17年度～ 平成24年度  (担当課) 技術支援課	<b>【現状認識・課題】</b>  (現状認識) 農業の担い手の減少や高齢化等により、遊休農地が増加し、その対策が急務となっている。 地球環境の悪化や温暖化が進む中で、農村においても資源循環型社会の形成に向け、地域モデルの推進が必要となっている。 (課題) 当事業の目標である10団体の育成を達成した。今後は継続期間を残すのみとなるが、遊休農地の有効利用を進めるため、菜の花等油糧作物の循環システムの構築を進めるとともに、資源循環型社会に対する住民意識の向上・啓発を図る。	<b>【施策の必要性】</b>  A: 状況の変化等により必要性が増大している B: 従前どおりの必要性が求められている C: 状況の変化等により必要性は後退している D: 目的を達成し、必要性は薄れている
	<b>【事業のねらい・具体的内容】</b>  菜の花を栽培し、その菜種から搾油した菜種油を学校給食や家庭での料理に利用するとともに、各家庭等から出る廃食油を回収して、せっけんやバイオディーゼル燃料に再利用する「菜の花エコプロジェクト」を推進する。 当事業により、遊休農地の有効利用が図られるとともに、一連の資源循環サイクルの構築により、環境の再生、エネルギーの自立、環境問題に対する住民意識の向上等が期待できる。	<b>【目標に対する貢献度】</b>  A: 予定を上回る効果 B: ほぼ予定通りの効果 C: 予定を下回る効果 D: 現時点で判断できない
[H23年度決算額]  775 千円 (国庫補助) (県単独)	<b>【23年度事業実績とその効果】</b>  平成23年度では県内で2団体がモデル事業に取り組んだ。取組団体では搾油した菜種油を食品として利用・販売し、その廃食油の回収を行い、バイオディーゼル燃料を製造した。その燃料はトラクターによる耕耘に再利用された。また、イベントでの菜種油販売などにより、地域の活性化や資源循環サイクルの啓発を図ることができた。	<b>【成果・活動指標の傾向評価】</b>  △: 全体として目標に向かっている(改善傾向) ∇: 全体として厳しい状況(悪化傾向) ⊕: 横ばいの傾向
[H24年度予算額]  400 千円 (国庫補助) (県単独)	<b>【今後の方針】</b>  資源循環システムの構築に必要な菜の花等の栽培、収穫、搾油、廃食用油の回収及び利用に要する経費、システムの構築に必要な機械のリース及び少額機械等の購入に要する経費の補助を行うとともに、栽培技術の指導等を行う。 取り組み団体は、菜の花の栽培を3作(4年間)行う中で、地域での資源循環システムの構築を目指す。	<b>【施策の手法・効率性】</b>  A: 概ね妥当と考える B: 部分的見直しが必要 C: 大幅な見直しが必要 D: 廃止・休止の方向

## （2）成果（活動）指標・関連データの推移

指標名	指標の推移					目標	傾向・要因分析
	2011	2012	2013	2014	2015	目標年次	
延べ取組団体数	10	10					目標10団体達成
作付面積(a)	175	111					平成23年度: 2団体 平成24年度: 1団体





